

伝統の暮らし・技・芸能を体感！ 第29回 博物館まつり

当館では、見る・聞く・触れるなどの様々な体験を通して、郷土の伝統文化・歴史への興味と理解を深めてもらおうと、毎年、昭和43(1968)年11月3日の開館日に合わせて、博物館まつりを開催しています。令和元(2019)年度は、11月3日(日・祝)・4日(月・休)に開催しました。

今回、初めて開催した高校生の若さあふれる書道パフォーマンスや、2日間にわたり行った北区の郷土芸能(神楽・獅子舞・盆踊り・太鼓)16団体の発表には、多くの市民の声援が送られました。また、郷土芸能をより身近に感じてもらうために、当館が寄贈を受けた他門の神楽のお頭を活用したお頭をかぶる体験や、横笛や太鼓の体験を実施しました。

■ 開催日 11/2(土)～11/4(月・休)

(11/2はチャリティー骨董市のみ)

■ 参加者数 延べ1,020人(3・4日のみ)

■ 催し物内容

- ・チャリティー骨董市(11/2～11/4)
(主催 チャリティー骨董市実行委員会)
- ・豊栄高校書道部 書道パフォーマンス(11/3)
- ・郷土芸能発表会(11/3・4)(出演順)
 - 11/3 長場神楽保存会、木崎三柱会、
豊栄郷土民謡保存会、内沼獅子舞保存会、
正尺神楽保存会、松浜盆踊り太鼓保存会、
長戸呂平成会 神楽、他門神楽保存会、
新崎甚句保存会、高森神楽保存会
 - 11/4 松浜太鼓保存会、御山伊佐弥神楽保存会、
内島見神楽保存会、新崎樽ばやし連、
竹の通り神楽連、新崎伊佐弥神楽保存会
- ・実演・体験・チャレンジコーナー(11/3・4)
(葛塚縞手織りの実演と体験、
消しゴムハンコ作り、ワラなべしき作り)
- ・横笛と太鼓で祭りばやし体験(11/4)
- ・神楽のお頭をかぶってみよう(11/4)
- ・お楽しみ抽選会(11/3・4)



郷土芸能発表会11/3(内沼の獅子舞)



郷土芸能発表会11/4(松浜太鼓)

神楽のお頭をかぶってみよう▶



▼横笛と太鼓で祭りばやし体験



書道パフォーマンス



手織り体験



ワラなべしき作り

協力 伊藤裕美子、大月優子、倉島百合子、齋藤早苗、
佐藤フミ子、成澤清子、藤田久美子、吉井雅枝、涌井修司、
新潟医療福祉大学生(上條夏綺、山住優菜、五十嵐凜、
石塚菜々恵、金子美咲)、
新潟県立豊栄高等学校書道部(関川正枝(書道講師)、
大橋朝陽、小林優花、酒井愛果、椎谷笑香、芹野しおり)、
葛塚縞手織りの会、郷土芸能保存団体16団体(敬称略)

昭和のくらし展 - 4回目の展示を終えて -

昔の道具(民俗資料)や写真などを通して、50年以上前の暮らしを紹介する「昭和のくらし展」は、平成28(2016)年度から毎年テーマを変えて開催し、令和元(2019)年度で4回目を迎えました。

4回目のテーマは「住まい」の道具イロイロです。「火に囲まれた暮らしの道具イロイロ」「水回りの道具イロイロ」「住まいをきれいにする道具イロイロ」「住まいには、ほかにもイロイロ」の4つのコーナーに分けて展示し、「体験コーナー」も設け、民俗資料・写真など84点を展示しました(p.5に内容を掲載しています)。

■ 会期 令和2.1/4(土)～5/17(日)

(4/21～5/10は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館)

■ 入館者数 2,049人(1/4～3/31は1,715人、
4/1～5/17は 334人)



「住まい」の道具イロイロ 会場風景

■ 昭和のくらし展のはじまり

当館は、平成27(2015)年5月より常設展示を「阿賀北の大地と人々のくらし」というテーマでリニューアルしました。新潟市北区の歴史を紹介するなかで、かつてこの地で行われていた湿田での農作業の道具、福島潟で使われた漁具・狩猟具などの民俗資料を展示し、北区の特徴を紹介しています。

これらの生業に関する資料のほかにも、当館には、日常生活に密着した昔の暮らしの道具を多数収蔵しています。この昔の暮らしの道具を公開しながら、学校の授業の内容とも連携させることができる企画として、平成28年度より昭和のくらし展を開始しました。本展を見学に訪れた来館者が、知恵と工夫をこらした昔の暮らしに興味を持ち、さらに、常設展示も併せて見学し、今以上に北区の歴史に興味を持ってもらいたいと考えています。

■ 1回目～4回目の内容

展示を通して、物が少なかった時代に物を大切に作る暮らしや、知恵と工夫をこらした人々の暮らし方を知ってもらうことが一貫したテーマです。

回	年度	会期	各回テーマ
1	平成28 (2016)	11/12～ 12/18	70年前の農家の冬の仕事 (ワラ仕事・機織りに関する 道具等を展示)
2	平成29 (2017)	11/25～ H30.2/12	「食べる」の道具たち
3	平成30 (2018)	H31.1/4～ 5/19	「着る」にまつわる道具たち
4	令和元 (2019)	R2.1/4～ 5/17	「住まい」の道具イロイロ

■ 小学校の授業での利用について

本展には、小学3年生の社会科「昔の道具とくらし」の学習のために、北区内の小学校が見学に訪れます。その際は、市民ガイド(常設展示ボランティアガイド)に協力をいただきながら、展示資料の説明や体験の指導を行っています。見学の内容(説明・体験・ワークシートの記入等)は、各校の要望に合わせ、45～90分程度で対応しています。実際に使われた昔の道具を見たり、使ったりする体験を通して、児童たちは驚き、さらに興味を深めていました。



■ 回を重ねて、会期を変更

本展は、3回目より、年度を越えて開催することになりました。桜並木の続く緑道の脇に立地する当館では、4月以降に来館者が増えるためです。福祉施設の高齢者の利用もあり、実際に使用したことのある昔の道具を懐かしくご覧になっていたようでした。

令和2年の春(4回目)は、新型コロナウイルス感染拡大防止による外出自粛や臨時休館により、4～5月の来館者の動向は例年と異なりましたが、次回(5回目)も、会期を令和3(2021)年1月5日～5月16日として、様々な世代に見学していただきたいと考えています。(曾部珠世)